

会議の名称	加東市生活支援体制整備推進協議会
開催日時	令和６年１１月７日（木） 午前１０時００分から１２時００分まで
開催場所	加東市役所３階　３０１・３０２会議室
<p>会長の氏名　（藤原　慶二）</p> <p>出席委員の氏名</p> <p>藤原慶二　岸本　亨　大西重義　内藤喜和　神戸三男　東嶋正一　藤井貴久代 臼井すず子　山内俊一　東　正伸　高松善教　山田かほり　岡田彩葉　森田真加 岡田知佳</p> <p>欠席委員の氏名</p> <p>藤井　徹　橋本雅樹　山口雅隆　楯本俊也</p>	
説明のため出席した者の職氏名	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>健康福祉部長　近澤孝則　高齢介護課長　井澤彰子　副課長　高濱さおり 主査　青野真理子</p>	
<p>議題、会議結果、会議の経過及び資料名</p> <p>１　開　会</p> <p>２　あいさつ</p> <p>３　議事</p> <p>１）報告事項</p> <p>（１）加東市生活支援体制整備事業の実施状況について【資料３】</p> <p>第１層及び第２層生活支援コーディネーターから資料３に基づき加東市生活支援体制整備事業の実施状況について説明</p> <p>会長：全体と各地域の説明が終わりましたので、質疑あるいはご意見ご感想があればお伺いしますが、いかがでしょうか。</p> <p>委員：東条の森尾地区の説明がございましたが、買い物ツアーで非常に良いことをされているのですが、車は森尾地区の方で用意をされたのですか。</p> <p>委員：まちかど体操に参加されている方の参加者の車に乗られています。</p> <p>委員：運転手は、毎週同じ方ですか。</p> <p>委員：そうですね、まちかど体操に参加されている方は、どうしても同じメンバーですので、同じ方になります。</p>	

委員：そうですか。良いことをされてますね。

会長：ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

委員：先ほど森尾地区の方で、まちかど体操と一緒に体操されている方が送っていくということで聞きましたが、個人の車で送り迎えをするということは、もし事故とかそういう場合の対応は何か対策として考えておられるのかというところをちょっとお聞きしたいです。

委員：実際に言われているように、そういったところはとても気になると思うのですが、事故等の対策について、私が取材に行かせていただいた時は、自然に乗り合いをされていて、3年も続くということは、やはりそういったことがどうしても気になったら車は出しにくいと思いますし、途中で継続が難しい、やめているパターンもあると思うのですが、乗せる側が、そういったことを気にせずに、困っている方に少しでも喜んでもらえたらという気持ちでされているということを特に感じました。

委員：ということは、もし事故等があっても、たぶん自動車保険に入られていると思うのでそのあたりの対策は大丈夫だと思うのですが、今現在、移動販売で各地区の方を巡回というか買い物ツアーはされているのでしょうか。

委員：東条地域では、移動販売はありません。以前、個人商店が個別で自宅に行かれていたことはあったのですが、個人商店がやめられて、個人宅へ持っていくというのとはなくなりました。滝野地域のような移動販売は、東条地域ではありません。

会長：他、いかがでしょうか。特にありませんか。ないようなので次へ進めます。

続きまして、2) 協議事項 (1) グループワーク～それぞれの活動から地域を考えてみよう～ということで、皆さんに話し合いをしていただきます。事務局から説明をお願いします。

2) 協議事項

(1) グループワーク～それぞれの活動から地域を考えてみよう～

事務局から、グループワークについて説明

会長：説明にあったように、まずは各グループで発表と書記を決めていただきます。その後各グループで、普段どういったことをしているのかということも含めて自己紹介をして、グループワークを約50分間行っていただきます。そして、各グループ5分間で発表をしていただきます。各グループに生活支援コーディネーターがいますので、進行に関しては各生活支援コーディネーターの方をお願いをします。それから模造紙がありますので、模造紙にまとめていく作業も同時にしていただきたいと思います。グループワークなので和気あいあいと進めていただける方がこのあと地域には入っていくやすいと思いますのでよろしくお願いします。

(2) グループワーク・発表

会長：話し合いをしていただきましたので各グループでどういった話が出たのかを全体

で共有をしていきます。1 グループからよろしくお願いします。

委員：私達の地域は、民生児童委員、加東市区長会そして加東シニアクラブ連合会のメンバーです。

全部で6つのグループに分けています。

まず「人づくり」です。たくさん意見が出たのですが、まずシニアクラブの活動です。社地域では年に2回グランドゴルフ大会を行っています。そしてニューススポーツ大会を年1回行っております。それから、12月にフードドライブを行います。これは各家庭で余ったもので長持ちして役立ってほしいという品物を持ってきていただいています。お米や、大根などの野菜です。それからタオルを持ってきていただいております。あとは、木梨地区では、人づくりのために、三世代でグランドゴルフ大会を行っています。また梶原地区でも同じように、三世代でグランドゴルフや飲食、子ども相撲をされています。

次に「居場所づくり」です。これはお寺やお宮関係なのですが、地区によっては月2回写経をしたり、木梨地区では、里山会といって毎月21日にお寺に集まられて、清掃、お話、ご詠歌をあげています。東古瀬地区は毎月23日に近い日に合わせて、まちかど体操が終わった後に同じようにご詠歌をあげています。また、木梨地区では、今はほとんどがグランドゴルフに変わっているのですが、今もゲートボールを行っておられます。上福田地域では、ふれあい喫茶、福田地域では、第4日曜日に喫茶をしています。あとはカラオケ大会や、梶原地区では月2回編み物教室をされています。まちかど体操もしております。それから、これは特殊なのですが、東古瀬地区では、初午、2月の一番最初の午の日です。これは五穀豊穡と安心、子どもが安心して暮らせてそして立派に成長することをお祈りして、相撲をとっております。祇園祭もあります。太鼓がございますので、7月の第2土曜日に屋台を巡行しております。

「移動」としては、自主運行バス、これは良いことだと思います。社地域では福田地域と米田地域と鴨川地域では自主運行バスを走らせています。ただ願望として、上福田地域と社地域では走っておりませんので、できれば、あと2便増やしていただけたらという希望です。それから、伝タクも走っていますしデマンドタクシーも走っています。

「まちづくり」としては、シニアクラブでフードドライブなどを行っています。花植えも年2回、春と秋に各地区に花を配っていただいて、花植えをされています。

それから、これはすごいと思うのですが、梶原地区では、月1回、梶原誌という歴史、その地区の歴史を6ページにわたり毎月発行されていて、4年間ほど続いているそうです。すごいことだと思います。

「受け止める」というところでは、他の地区もされていると思うのですが、登下校の見守り隊、民生児童委員による心配ごと相談、これは東条地域と滝野地域もされて

おられます。あとは、85歳以上の一人暮らしの方に、月1回は、民生児童委員また民生児童協力委員が訪問しております。生存確認を兼ねております。

最後に「あったらいいな」ですが、まず地区のグラウンドの水道設備がないので、市役所と協力して水道設備を作れたらいいと思います。それから、広報かとうの字が小さいのでもう少し字を大きくしていただきたい、ページ数は増えますが、これは希望です。あと他市の情報を聞いて、できたら加東市でもお願いしたいのは、小野市では今現在、プレミアム商品券を発行しています。加東市も以前はあったのですが、小野市はたぶん2回目だと思います。また三木市は、70歳になれば無条件でタクシー券が2,000円分と、温泉の割引券を、全員無条件でいただけるそうです。加東市は所得制限があって年間15,000円分のタクシー券が配られているのですが、三木市は全員無条件であたるそうです。これは依頼でございます。ご検討よろしく願います。

会長：ありがとうございました。続いて2グループ、よろしくお願いします。

委員：「交流」としまして、稲尾地区では夏祭りや歩こう会、敬老会、神社の掃除、あといきいきサロンでは、三世代交流のモーニング、コーヒーを飲んでという交流会をされてます。それからまちかど体操です。あと介護施設と地域の交流、入居者とこども園の園児との交流があるとご意見が出ていました。施設の夏祭りや、地域のボランティア活動の受け入れもされており、音楽や料理教室などがあるそうです。他には、三世代で一緒にいろいろと大会をされているというのが「交流」というところではありました。

「生活支援」ですが、生協が移動販売をされていたり、フードドライブもあります。

「支える」という点では、給食サービスボランティアをしております。高齢者の見守りについて、稲尾地区では、近所の方が月1,2回に分けて、高齢で一人暮らしの方を訪問していろいろ聞いたりお話をされていて、地区内で見守りするということがずっと続いているようで、とても良かったと皆さんも言われていました。

それから「サービス」としましては、生協の宅配サービス、近所にある介護タクシーの活動がとても活発にされております。訪問して歯の治療にあたるという歯科医院もございます。あとは、デマンドタクシーがあったり、花や土など重たい物を配達することもされています。

「サービス」と「生活支援」というのが一緒になってしまいます。「支える」という部分も含めて3つが一緒になると思います。

介護施設の方では人材育成としまして、福祉学習のほか、中学生や大学生の研修を受け入れて、職業体験をされているということで、やはり将来性のあるとても良いことをされているということでした。これも全てひっくるめて、やはり滝野地域連絡会がまとめているということで、このような図になりました。

会長：ありがとうございました。では3グループよろしくお願いします。

委員：3グループです。よろしくお願いします。

東条地域としましては、大きく「人づくり」と「まちづくり」ということで話し合いをしました。東条地域では、イベントが結構多く、現在日本木管コンクールが始まっております。あと、他にはない特徴のあるミニ文化祭というものが、今年とはどろき荘の改修があり少し時期が遅れたのですが、今月末から2日間開催することになっております。この「ミニ」というのも、小さいという意味ではなく見に来てくださいという「ミニ」なので、途中で「ミニ」を取るような話があったのですが、実行委員の方としては、断固反対しまして、いまだにミニ文化祭ということではしております。

あとは福祉学習やボランティア活動も、東条学園の方が協力をしてされています。それから、ふれあい喫茶をボランティアで手伝っていただいております。他には、まちづくり協議会というのがあり、いろいろとイベントをしておりまして、春夏秋冬、全部何か行事をするということで、夏は魚のつかみ取り、冬はとんど、春はニュースポーツなどでずっとさせていただいております。

「まちづくり」ですが、いろいろと先ほど説明させていただいたように、地域への声かけで買い物に行ったり、そこはずっと特徴ある形でされているのですが、福祉の方でも大きな介護施設がありまして、いろいろと計画されているようなので、あとで話していただこうと思っています。私は今、非常勤で福祉関係のでんでん虫の会でお手伝いをさせていただいているのですが、私が行き始めてから、近くの農家の田んぼを借りて、ご存知だと思うのですが、田植えから稲刈りまで行い、最後はお米になって、それがお酒になるという形で、市の方の協力も得てさせていただいております。

委員：福祉施設で勤務するようになり東条地域に関わらせてもらう中で、最初に思ったことが、地域の課題に対して、集まって、話し合いの場がすぐ持ってもらえたり、とても協力的な地域だという印象を持っています。最近のことで言いますと、小規模多機能の事業所があるのですが、そこが絆カフェをずっと昔にさせてもらっていて、コロナの影響で中止していたのを再開する時に、もう既に地域にまちかど体操で集まりの場がしっかりありましたので、そういったところで再開に向けて参加するという形がとても取りやすい印象がありました。とどろき荘でカフェがあったり、これもなかなか外出の機会がなかった施設の入居者をお連れして一緒に参加させていただいたり、参加すると、そこに東条学園の生徒がボランティアで来てくださっていたり、いろいろ多世代で関われるという印象がとてもありました。施設自体は丘の上の方にありますので、本来ならば皆さんがもっと介護に対する相談であったり交流の場として来ていただけるような場所に、例えば事業所の出張所みたいなものがあったりしても面白いのかなというような話がグループで出ました。

会長：ありがとうございました。3グループそれぞれ各地域の実態に合わせて話をして

いただきました。おそらく、コーディネーターとしても、知っていることと初めて聞くことが出てきていたのではないかと思います。そんな中で、やはり3地域それぞれの活動には特徴があるのですが、共通していることは、たぶん今日ここに来ている皆さんは、自分の地域のことがとても好きなのではないかと思います。そうでないと活動するということは大変ではないですか。やはりコロナ禍を経て、実はこういうことがなくても生活できるということを住民の皆さんは経験をしてしまったんです。ですので、そこを再開させていくというのはとても労力があることで、ある意味作業になっているのではないかと思います。でも古き良き伝統があって、それを大切にしていくことの重要性というところであると思います。難しいのは、たぶんこれを20歳代や30歳代の層に、ここの地域でこんな良いことがあってこんな伝統があると言っても、響かない。40歳代半ばに差し掛かってきてやっと、地域のこういう伝統はとても大切で、それを守っていくことがそれぞれの住民がこの地域にある意味愛着を持ち、誇りを持つ、いわゆるプライドを持つことに繋がっていくということが、やっと自分自身も分かってくる年齢だと思います。だからこそ、20歳代や30歳代は、もうわからないから仕方ないというのではなくて、だからこそ、その伝統を絶やさずに守り続けることはとても大切になってくると思いました。そこに関わる人たちは、ある種ボランティアです。そういう活動というのは。でもたぶん誰もボランティアと思って関わっていない。好きでやっていたり、そこに行く仲間や知っている人がいたりする。中には大変な思いをしながらされている方もいると思うのですが、何かした後、終わったら何かほっとするというのと、何かちょっとした達成感があって、大変だったけどやってよかったという活動になっていると思います。そういう意味では、ある意味自分自身の中でも楽しみながらできる活動というものを作り続けていく、それが若い頃だったらおそらく趣味などになってくると思います。ご高齢になったとしても、編み物など、それぞれ趣味の活動があったり、地域に根付いた活動もあったり、そういういろいろな多様な選択肢というものが加東市の中にたくさんあり、どれを取捨選択するかは各住民に委ねられていく、そういうことを考えていくことがとても大切だと思います。

あとはそれを支えていく人材という部分では、やはりトライやるウィークはとても大切だと思います。大学入試で面接を行う時に、なぜ福祉に興味を持ったのかを聞くと、実は中学生の時にトライやるウィークで特別養護老人ホームに行ったという子が結構います。だからとても意味のある活動で、そこを受け入れていただく企業や施設がたくさんないと、関心を持ってくる子どもも減ってきます。ですので、これから新しいことをどんどん始めていきたいと思いますということではなくて、今ある大切にしているかといけな活動に改めて焦点を当てて、こういう活動はどういう意味で大切なのかということ、活動している皆さんがまず認識をしていく。そこに関わっていた

だく人にそれを伝えていくという循環をどんどん続けていかないと、おそらくこれから加東市に限らずどこの自治体もただ衰退をしていく。そういう意味では都市部は衰退していきやすいです。神戸では、とんどをやるのですが、子どもたちからしたら一大イベントで、ただ楽しいで終わって、そこで子どもたちは小学校での友達がいるからそのまま遊んだりしますが、大人がそこに行っても大人同士で交流があるかといったら本当に限定的なものになります。ですので、せっかくこういったいろいろな良い活動がたくさんある中で、加東市で生活をされている方がいるわけですから、住民自身が加東市に愛着を持ってくれる、そういった取り組みを継続していく。難しいのは、新しくどのように人を入れるのかということですが、来たらいきなり囲い込むようなことをするのではなくて、徐々に来てくれる回数が増えてきたらいいというぐらいの感覚で活動に参加してくれる人を増やしていくことがとても大切だと思います。そうすると、シニアクラブの会員が増えてくる可能性も十分にあると思います。ですので、一つ一つの活動を丁寧に継続していくということと、いかに柔軟に、そこに関わってくる人を増やしていくのかということです。もちろん来るもの拒まず去るもの追わずというスタンスが基本ですが、そういうふうに地域活動を続けていく、それがおそらく加東市で生活をしていく一つの基盤になっていきます。

もう一方で、なかなか人材が集まらなくて継続が難しくなってくる活動も出てくると思うので、その時は、思い切ってやめるという選択肢を皆さんが心のどこかに持っておくことも大切かと思います。やめるということが難しかったら、専門職の方に、しんどいからやめようと思うということを相談すると、それも一つですとなるのか、いやもうちょっとこういう形でやってみましょうか、ここにお願いしてみましょとかと、いろいろな人を巻き込んでいく力を持っていますので、ぜひそういうふうに専門職の方も頼っていただければいいと思います。

委員：質問があるのですが、今会長が言われたように、部落で写経をしたりお寺に寄ってきてもらうようなことをしているのですが、高齢者で一番上の人で92歳ぐらいの人がいるのですが、若い人に是非とも伝統的なことを伝えて来てほしいと言われていて、若い人に言うのですが、やはり興味がないというか、みんな忙しいというか。私ももともとそのように誘われて入っているのですが、なかなかそういう風に伝えていくというのは、何回も言わないといけないのでしょうか。

会長：そうですね。今は日本社会全体が生活に余裕がないです。だからそこはとてももったいないと思います。でもそれを伝えていくということをし続けていかないと、途絶えてしまうことになります。あとは地区でやっていることに対して、例えば他の地区から、関心がある人が来ていいのかどうかというところが重要になってくると思います。

委員：方々からですね。

会長：そこにこだわらなくてもいいのであればそういう形もあると思います。

委員：わかりました。頑張ります。

会長：こういう住民をととても大切にしていけないといけないというのが、今コーディネーターがよくわかったと思います。これからもよろしくお願いします。

時間の関係もありますので、一旦議事の方は終了させていただきます。皆さんご協力いただきましてありがとうございました。進行を事務局にお返しします。

4 その他

事務局より事務連絡

5 閉 会